

第15回防災文化講演会を気仙沼市で開催しました(2016/11/19)

テーマ：災害史・防災教育

場所：気仙沼中央公民館（宮城県気仙沼市）

11月19日（土）に気仙沼中央公民館にて第15回防災文化講演会を開催しました（主催・災害科学国際研究所）。講演会には一般の方々約35名が参加し、蝦名裕一准教授（人間・社会対応研究部門 災害文化研究分野）、富山大学人間発達科学部の中村只吾准教授が講演を行いました。

講演内容

蝦名 裕一 「災害と歴史資料の保全・活用」

中村 只吾 「海辺集落の生活文化と災害一簣立の歴史を中心に」

蝦名准教授は、歴史資料にもとづく災害研究の手法や東日本大震災における被災古文書のレスキュー活動について講演をおこないました。中村准教授は気仙沼市唐桑一簣立古館家の文書の調査にもとづき、一簣立の歴史や信仰、さらに東日本大震災がこれらに与えた影響について講演をおこないました。パネルディスカッションでは、現在の古館家当主 鈴木伸太郎氏がパネラーとして登壇し、蝦名・中村両氏とともに今日受け継がれる鈴木家の年中行事や実際に伝統を担う事の意味と、歴史や伝統が東日本大震災からの復興の中で果たしている意義について討論を行いました。



会場の様子



蝦名准教授の講演



中村准教授の講演



古館当主鈴木伸太郎氏

文責：蝦名裕一（人間・社会対応研究部門）、鈴木修・熊谷成一（気仙沼サテライト）